



乃木小だより

～ かしこく つよく やさしい子 ～

～まつえ湖南学園～
松江市立乃木小学校
令和5年10月24日
(文責) 校長 野津

《 4年生が出演した連合音楽会 》

今月末(26日・27日)の校内音楽会に向けて、インフルエンザ対策をとりながら、どの学年も練習に熱が入っています。保護者の皆様にはご案内しておりますが、子どもたちの生の演奏を大きな期待感をもって鑑賞していただけたらと思います。会場の混雑も予想されますので、鑑賞場所については発表ごとに出演する学年の保護者の方を優先するなど、ご協力をお願いします。

これに先立ち、10月4日(水)松江市小中学校連合音楽会が県民会館にて開催されました。新型コロナの規制が緩和され、久しぶりに保護者の皆様にも会場で聴いていただける音楽会でした。恒例により、本校からはこの日を目指して練習を重ねてきた4年生が出演しました。前日、もともとの予定では、校内壮行演奏会として全校児童が参加する予定でしたが、インフルエンザの流行もあり、急遽3年生、6年生の2学年が参加して行いました。

当日、県民会館大ホールで演奏した合唱「絆～キミとボクのたからもの～」、そして合奏「Under the Sea」は、静まりかえったホールの中で美しく響き渡りました。客席で大勢の他校の子どもたちが、ステージ上の本校4年生の真剣な表情をじっくり見つめている様子も印象的でした。

ほかの学校の先生方からも「乃木小すごいね」と言葉をかけていただき、私はとてもうれしく、また誇らしく思いました。まさに、4年生みんなが心をつなげて創り上げた世界に一つだけの素敵な発表でした。4年生一人一人の「絆」が生み出した「たからもの」です。



本校4年生の発表会の演奏は、山陰ケーブルビジョン(マール)にて、11月12日(日)20:00～放映される予定です。

～前日、体育館で演奏する4年生～

《 「あゆみ」について・・・後期の開始にあたり 》

9月の終わり、子どもたちに「あゆみ(通知表)」を渡し、保護者の皆様にも確認していただきました。ご家庭でもお子さんと話題にさせていただけたことと思います。「あゆみ」には、個々の児童の頑張った姿、成長した姿を中心にとらえ、学級担任が表記しておりますが、もちろん記載されていることは、一人一人の見える一面であり、それが全てではありません。どの子どもも、目立たぬところで頑張っている部分があるはずで、人に認めてもらうことはうれしいことです。私たちは、常々広い視野をもって観察し、そういう姿を褒めていきたいと思っています。また一方では、誰にも気づかれなくてもそうしたことは気に留めず、自らの意思で行動に移している姿勢も、素晴らしい価値があり、そこに人としての誇りが宿っているようにも考えています。

今年度も半分を過ぎ、後期が始まりました。これまでの振り返りをするなかで、自分自身の目標や課題を見据え、子どもたちみんながさらなる成長に向かい、新たな一步を踏み出してほしいと願っています。

《 学力向上に向けて 》

言うまでもなく学校は勉強するところであり、子どもたちの「学力」を高めていくことに私たちは努めています。学級や学年部の枠を超え、教員どうしで授業を公開し合ったり講師を迎えて授業研究を深めたりしています。「学力」と言っても、その捉え方は、幅広いものがあります。今日の学校教育では、子どもたちに「何を理解し、何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」そして「どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」という資質・能力を高めていくことが求められています。そうしたねらいのなかで授業改善に取り組んでいます。

「わかる授業」という言葉があります。これは、教員が一方的に説明したりやってみせたり子どもが納得していくこととは、少し違います。みんなが「この問題の答えはこうだ」というふうに教えてもらって「正解がわかる」ことだけではありません。

授業の中で「めあては何か」「今何をやる時間なのか」、「何に向かって取り組んでいるのか」「課題を解決するために何をすればいいのか」「次は何をしたらいいのか」「自分で理解したことは何か、曖昧なことは何か」等々、子どもたちが自分と向き合って学びを進めていく過程に視点をおいて「わかる」ことが大切であり、乃木小では、そのような授業を心がけて進めていきたいと思っています。

1学期には、6年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。本校の6年生の平均正答率は、国語・算数とも全国平均を上回る数字が表れました。これは、低学年からこれまでの積み上げが、6年生の段階での「結果の一部」として現れたものであり、大切なのは、この数字に一喜一憂するのではなく、前述したねらいに向けて日々の指導に力を注いでいくことだと思っています。これまでも「対話でつなげる」を大切にされた授業づくりについて触れてきましたが、私たちは次のように分析し、今後につなげていきたいと考えています。また、学力向上には、家庭学習の充実も不可欠です。適切な生活習慣や体力向上も大きくかわかり、自分に自信をもち、将来の自分に大きな夢をもって暮らしていくことも重要です。ご家庭でもご協力をお願いします。

～ 6年生の全体的な傾向として（国語・算数）～

【強み】	【弱み】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的学習規律が整っている ・ 与えられたことに素直に取り組む ・ 国語が好きという子どもが多い ・ 普段の図書館活用が解答に生かされている ・ 算数が好きという子どもが多いわけではないが、粘り強く取り組むことができ、無回答率が低い ・ 漢字や言葉の知識、表の見方や図形の名称などの基本は身につけている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読んではいるが、その意味を十分理解できていない ・ 感想は書いても複数の条件を満たして文章を書くことが苦手 ・ 基礎的な計算の力はあるが時間がかかる ・ 算数の文章題など、情報を取捨選択して解く力が弱い ・ 既習内容とつなげて理解する面が弱い ・ 発展的な問題を解く力が弱い

～ 今後の指導における改善策 ～

○書いて表現する力をつける

（書く経験を大切に、書くことの抵抗感を軽減する）

事実と自分の考えを分けて書く 自分の考えを適切にまとめて書く



○対話の中で、質問や応答、考えを伝え合うことの良さを実感できるようにする

○日常生活と結び付けて計算の仕方や意味を理解し、正しく速く行えるようにする

○式や図と説明の往還をしながら指導を進める

○ICT 機器を効果的に活用する